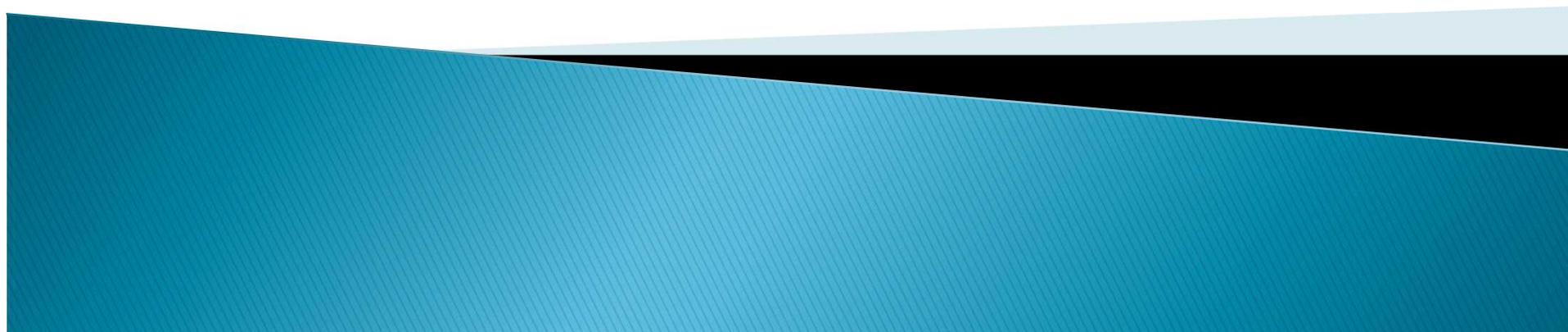


資質・能力を基盤とした 学校教育の創造

奈須正裕(上智大学)



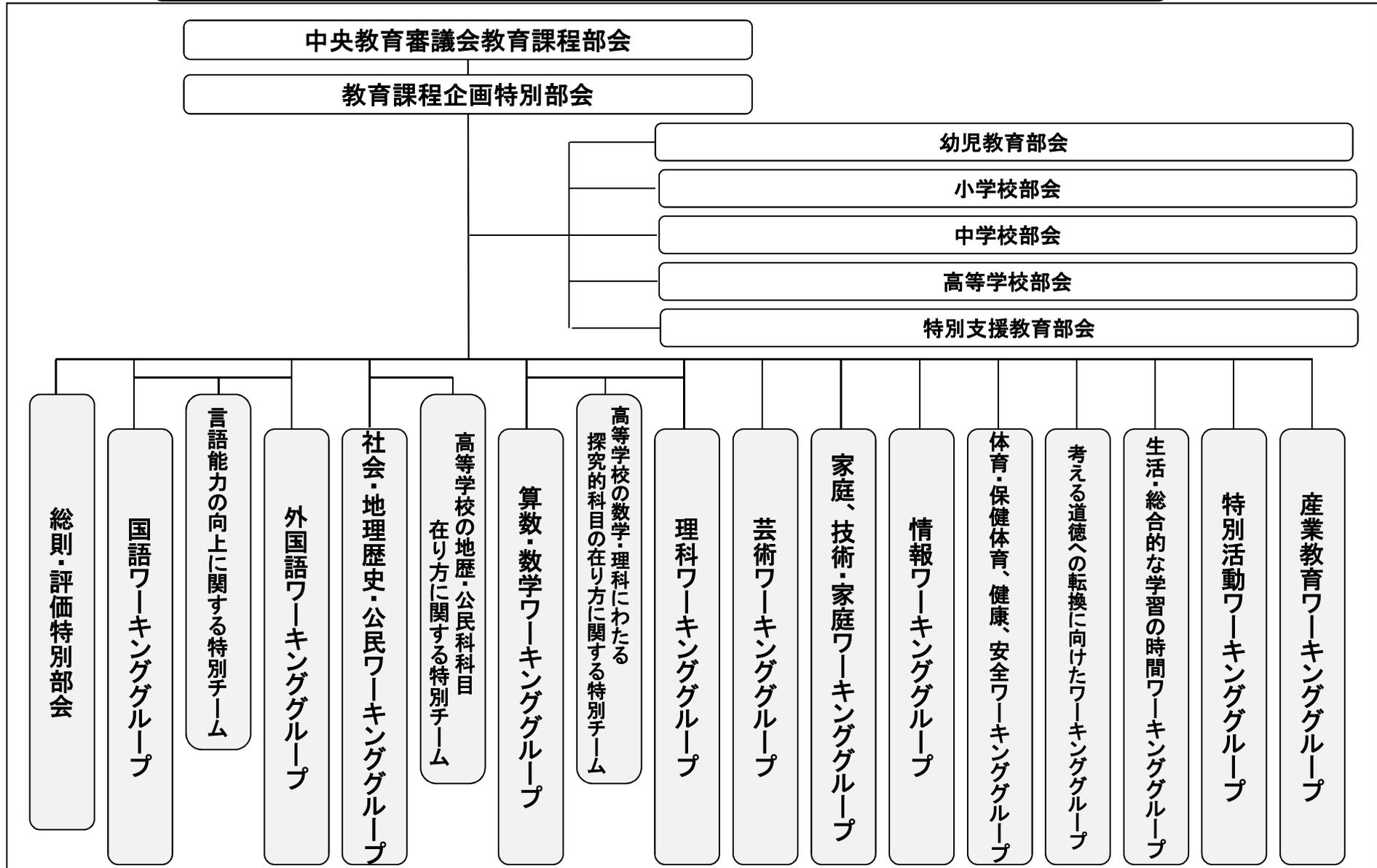
学習指導要領改訂に係る議論に関するこれまでの経過と今後のスケジュール

平成26年11月	中央教育審議会総会 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問
平成26年12月	教育課程部会 ・ <u>教育課程企画特別部会</u> を設置
平成27年 1月	教育課程企画特別部会（第1回） 
	新しい時代にふさわしい学習指導要領の基本的な考え方や、 教科・科目等の在り方、学習・指導方法及び評価方法の在り 方等に関する基本的な方向性について、計14回審議
平成27年 8月	教育課程企画特別部会（第14回） 教育課程部会 ・「論点整理」をとりまとめ
平成27年 秋以降	論点整理の方向に沿って教科等別・学校種別に専門的に検討
平成28年	教育課程部会又は教育課程企画特別部会における議論を踏まえて、審議のま とめ
平成28年度内	中央教育審議会として答申

（小学校は32年度から、中学は33年度から全面实施予定。高校は34年度から年次進行により実施予定。）

次期学習指導要領改訂に向けた検討体制

平成27年8月26日
教育課程部会了承



これからの時代に求められる在り方

21世紀が知的基盤社会であるという認識は、前回改訂と共通。
グローバル化や情報化等の変化が加速度的となる中で、
将来の予測がますます難しい時代に。

(現代的な課題)

- 社会的・職業的に自立した人間として、郷土や我が国が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野と深い知識を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、個性や能力を生かしながら、社会の激しい変化の中でも何が重要かを主体的に判断できること。
- 他者に対して自分の考え等を根拠とともに明確に説明しながら、対話や議論を通じて多様な相手の考えを理解したり自分の考え方を広げたりし、多様な人々と協働していくことができること。
- 社会の中で自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題を解決に導き新たな価値を創造していくとともに新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。

＜社会に開かれた教育課程＞

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会づくりを目指すという理念を持ち、教育課程を介してその理念を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合っていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化していくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

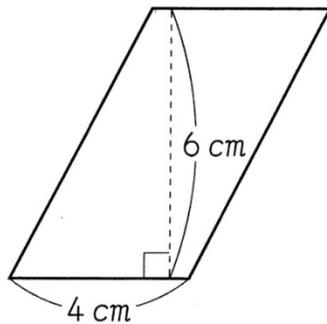
学力論の2つの系譜

- ▶ 「内容」(領域固有な知識・技能)中心
コンテンツ・ベース
「何を知っているか」
A問題的学力
- ▶ 「資質・能力」(思考力、意欲、社会スキル)中心
コンピテンシー・ベース
「どのような問題解決を成し遂げるか」
B問題的学力、PISA型学力

全国学力・学習状況調査：A問題とB問題

次の図形の面積を求める式と答えを書きましょう。

(1) 平行四辺形

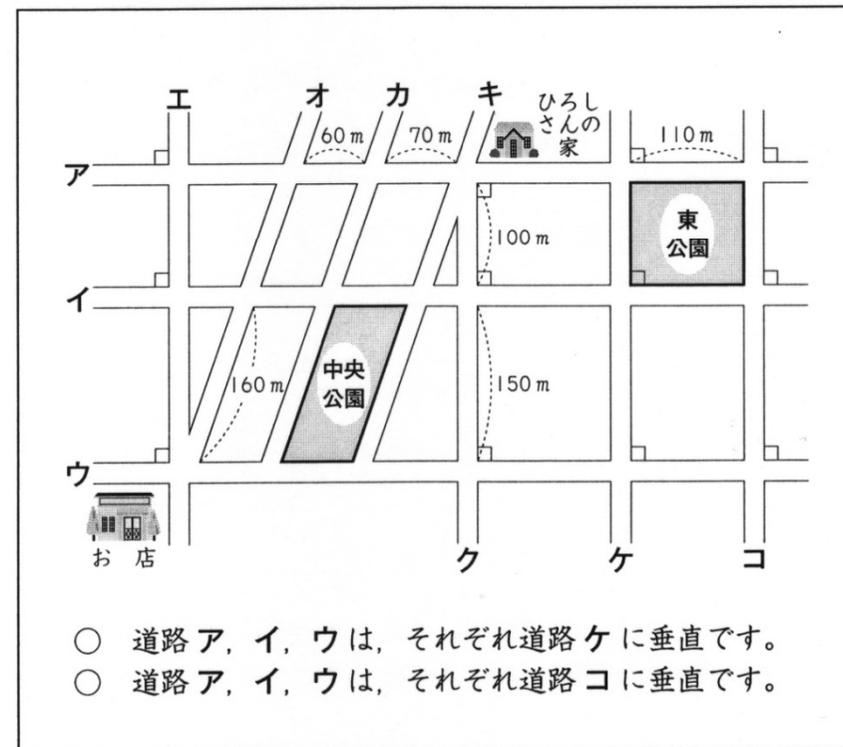


6年生算数のA問題(上)とB問題(右)
 (平成19年度全国学力学習状況調査より)
 正答率：A問題 96%、B問題 18%

(3) ひろしさんの家の近くに東公園があります。

東公園の面積と中央公園の面積では、どちらのほうが広いですか。

答えを書きましょう。また、そのわけを、言葉や式などを使って書きま
 しょう。



知識の質と問題解決への有用性(活用)

- ▶ 不活性な知識: 言語的な命題や事実として貯蔵
- ▶ 「車両走行中にアクセルペダルから足を離したり低いギアにチェンジすることによって生じる制動作用をエンジンブレーキと言う」
- ▶ 活性化された知識: 条件(IF)節と行為(THEN)節の対として貯蔵
- ▶ 「もし、急な下り坂や雪道ならば」(条件節)、「車両走行中にアクセルペダルから足を離したり低いギアにチェンジすることによって生じる制動作用(=エンジンブレーキ)を使って走行しなさい」(行為節)

マシュマロ・テスト

- ▶ ミシェルが、186人の4歳児に行った実験(1970年)
- ▶ 今なら1個、15分待てたら2個のマシュマロがもらえる
- ▶ 1/3の子どもが2個のマシュマロを獲得
- ▶ 1988年に追跡調査:
 - ①自制心の有無は持続していた
 - ②4歳時点の結果が、大学進学適性検査(SAT)のスコアを予測した
- ▶ 非認知的能力の重要性に加えて、幼児教育の質が生涯にわたる可能性を示唆
- ▶ 教育経済学:投資効果が最大になるのは幼児教育、その主要なターゲットは非認知的能力

育成すべき資質・能力の三つの柱

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

学力論の2つの系譜

- ▶ 「内容」(領域固有な知識・技能)中心
コンテンツ・ベース
「何を知っているか」
A問題的学力(不活性な知識でも正解に至れる)
- ▶ 「資質・能力」(思考力、意欲、社会スキル)中心
コンピテンシー・ベース
「どのような問題解決を成し遂げるか」
B問題的、PISA型学力(活性化された知識→思考力)
＋非認知的能力(意欲、社会的スキル…)

今後に求められる学力

- ▶ 「解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分」
 - ▶ 「蓄積された**知識を礎**としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら**新たな価値を生み出していく**ことができるよう、そのために必要な**資質・能力**を身に付けることが重要」
- ・・・「正解」から「最適解」へ

教育課程企画特別部会「論点整理」(2015年8月)より

知識の質を変える： 要素的知識から概念的・意味的な理解へ

- ▶ 「**個々の事実に関する知識**を習得することだけが学習の最終的な目的ではなく、新たに獲得した知識が既存の知識と関連付けられたり組み合わせられたりしていく過程で、**様々な場面で活用される体系的な概念**等として身に付いていくということが重要」

教育課程企画特別部会「論点整理」(2015年8月)より

非認知的能力を学力に含める

- ▶ 「教育課程について、「何を知っているか」という知識の内容を体系的に示した計画にとどまらず、「**それを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか**」までを視野に入れたものとして議論する」
- ・・・認知的能力だけでは、問題解決はできない！

教育課程企画特別部会「論点整理」(2015年8月)より

コンピテンシー・ベースへの時代的要請

- ▶ 社会構造の変化:産業社会→知識基盤社会
- ▶ **知識基盤社会**=知識を自在に「活用」したり、新たな知識を自力で生み出すことが求められる社会
 - ① 産業界が求める人材の変化:定型から非定型へ
 - ② 終身雇用・年功序列の崩壊:自分の生き方を独自に模索し、切り拓く必要性→キャリア教育
 - ③ 答えのないグローバルな課題の出現と深刻化→ESD、政治的・宗教的リテラシー
- ▶ 思考・判断、発想・構想、他者との協働、自己調整の能力が**すべての人**に求められる時代に

なぜ、いきなり教科の議論をしなかったのか

- ▶ 「指導すべき個別の内容項目の検討に入る前に、まずは学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、育成すべき資質・能力を整理する必要がある。その上で、整理された資質・能力を育成するために「何を学ぶのか」という、必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶのか」という、子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要」

教育課程企画特別部会「論点整理」(2015年8月)より

資質・能力、内容、教育方法

- ▶ 「何ができるようになるのか」: 資質・能力
 - ▶ 「何を学ぶのか」: 内容
 - ▶ 「どのように学ぶのか」: 教育方法
-
- ▶ 「資質・能力」の育成という、より高次な目的
 - ▶ 「内容」を通して「資質・能力」を育成
 - ▶ 「内容」それ自体にも、もちろん意味はある
 - ▶ 教育方法の刷新: アクティブ・ラーニング
- ・・・コンテンツかコンピテンシーかという従来の対立図式を乗り越え、より統合的な学力としての「資質・能力」の育成を目指す

学習指導要領改訂の方向性（案）

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

学びを人生や社会に活かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における**「カリキュラム・マネジメント」**の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

深い学び

対話的な学び

主体的な学び

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

教科横断的な視点での カリキュラム・マネジメント

- ▶ 「これまでの学習指導要領は、知識や技能の**内容に沿って教科等ごとには体系化**されているが、今後はさらに、教育課程全体で子供に**どういった力を育むのか**という観点から、**教科等を越えた視点**を持ちつつ、それぞれの教科等を学ぶことによって**どういった力が身に付き**、それが教育課程全体の中で**どのような意義を持つのか**を整理し、教育課程全体の構造を明らかにしていくことが重要」

教育課程企画特別部会「論点整理」(2015年8月)より

教科の本質(=見方・考え方)が 資質・能力育成の「鍵」

- ▶ 「資質・能力と学習指導要領等との構造を整理するには、学習指導要領を構成する各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身に付くのかという、**教科等の本質的な意義**に立ち返って検討する必要」

教育課程企画特別部会「論点整理」(2015年8月)より

→「教科等の特質に応じた見方・考え方」への注目

- ▶ 要素的な知識を教科の本質・その教科ならではの「見方・考え方」で整理・統合し、概念的理解、深い意味的理解へと高めていく

主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）（案）

平成28年5月9日
教育課程部会
高等学校部会
資料8（会議後修正）

○「論点整理」におけるアクティブ・ラーニングの視点

【深い学び】

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。

【対話的な学び】

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。

【主体的な学び】

子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

総則・評価特別部会及び各教科等WGの議論を踏まえ、以下のように整理できるのではないか

【深い学び】

習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じた見方や考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解につなげる「**深い学び**」が実現できているか。

【対話的な学び】

子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【主体的な学び】

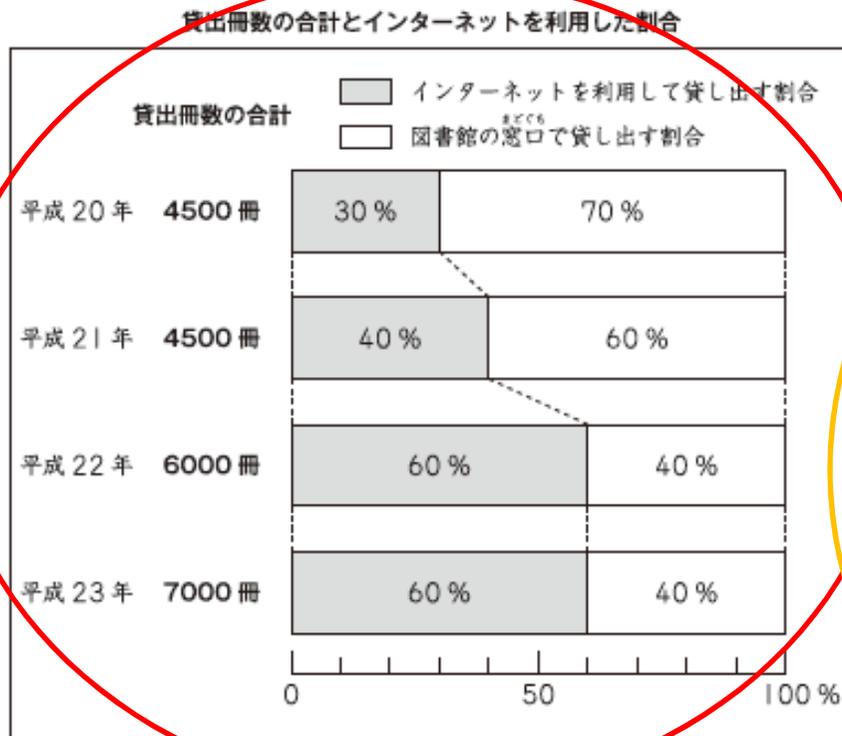
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

オーセンティックな学習 (Authentic Learning)

- ▶ 現実の社会に存在する**本物の実践**に可能な限り近づけて学びをデザインする
- ▶ オーセンティック=真正な、本物の
- ▶ オーセンティックではない授業・評価
- ▶ 鶴亀算・・・鶴と亀の足の区別がつかないの？
- ▶ 「60人乗りのバスがあります。140人を運ぶには何台のバスが必要ですか？」に「2と1/3台」と答える子ども
- ▶ 音楽や体育のペーパー・テスト、暗記で解ける社会科
- ▶ パフォーマンス・テストへの移行

(2) 次に、図書館の人が、最近ではインターネットを利用して本を貸し出す割合が増えていることを教えてくださいました。

そして、次の帯グラフを見せてくれました。帯グラフは、平成20年から平成23年までの貸出冊数の合計とインターネットを利用した割合を表しています。



平成25年度全国学力学習状況調査 6年生算数「割合」に関するB問題

かずやさんたちは、実際にインターネットの貸出冊数が増えているかどうかを調べます。

インターネットの貸出冊数は、次の式で求められます。

$$\text{貸出冊数の合計} \times \text{インターネットを利用した割合} = \text{インターネットの貸出冊数}$$

この式を使って、かずやさんとたまきさんは、平成20年と平成21年を比べました。



かずやさんの考え

30%と40%を小数で表すと0.3と0.4になります。
 $4500 \times 0.3 = 1350$ なので平成20年は1350冊です。
 $4500 \times 0.4 = 1800$ なので平成21年は1800冊です。
 だから、平成21年のほうが増えています。



たまきさんの考え

30%と40%を小数で表すと0.3と0.4になります。
 4500×0.3 と 4500×0.4 を比べると、もとにする量は同じで、割合は大きくなっています。
 だから、平成21年のほうが増えています。

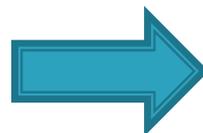
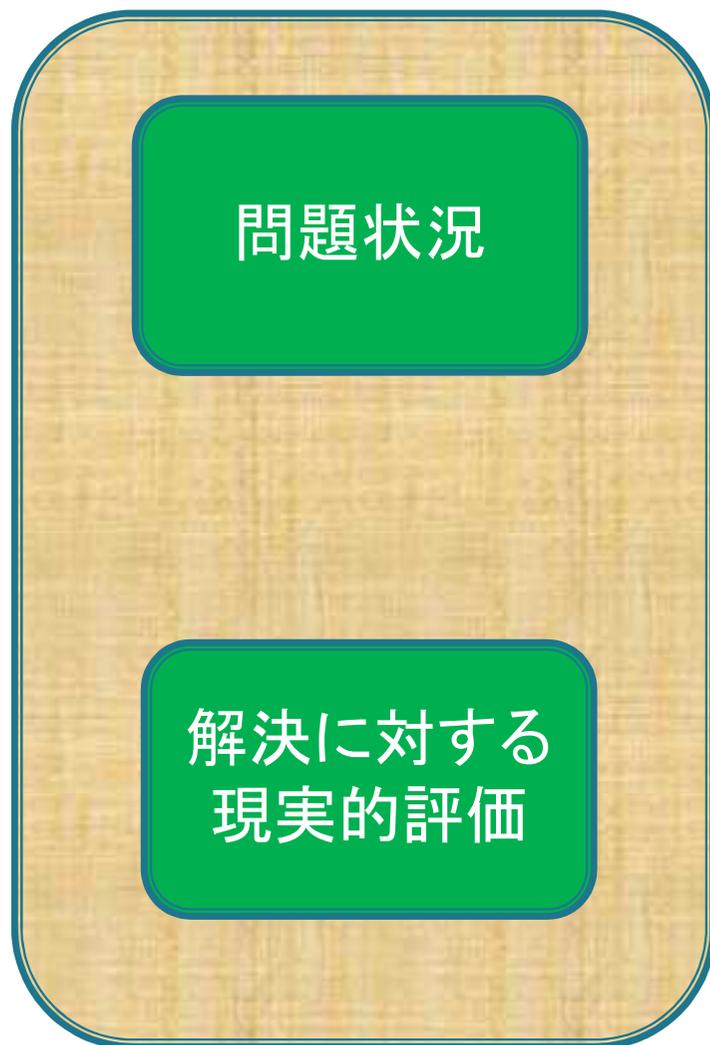
平成22年と平成23年を比べると、インターネットの貸出冊数は増えていますか。下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、2人の考えのどちらか一方をもとにして、言葉と数や式を使って書きましょう。

- 1 平成22年より平成23年のほうが増えている。
- 2 平成22年より平成23年のほうが減っている。
- 3 平成22年と平成23年は変わらない。

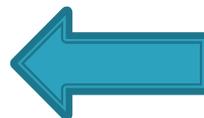
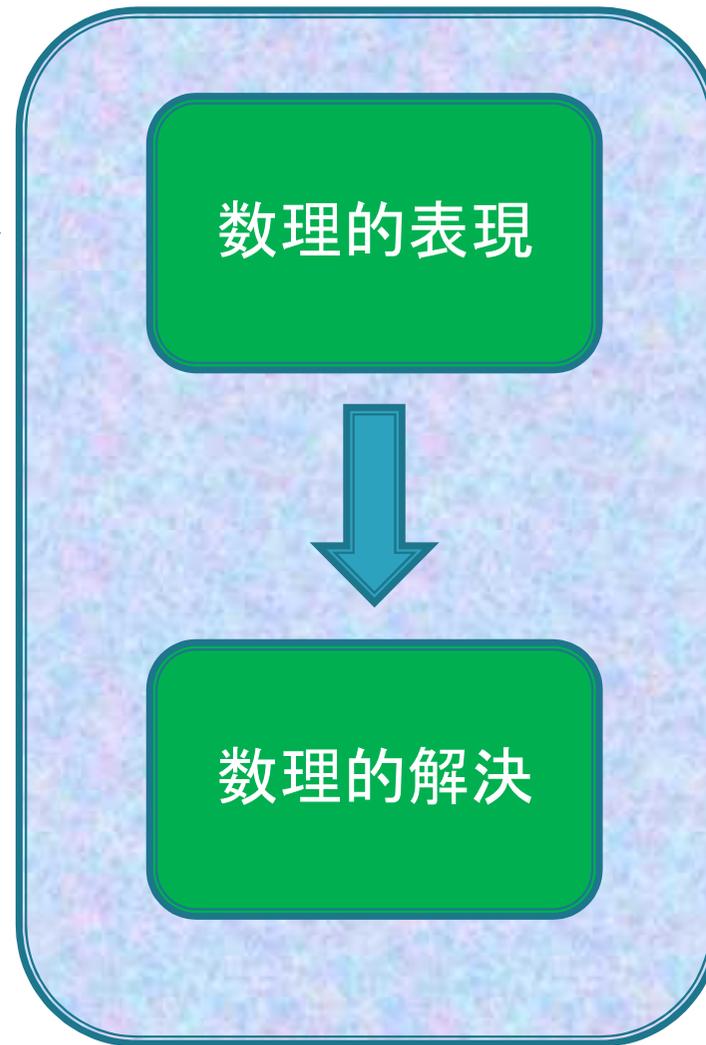
手続きから意味へ

- ▶ 現実世界の複雑な文脈や unnecessary 数値が埋め込まれた B 問題
- ▶ 「公式」さえ問題中に示される！
- ▶ 計算せずに数理的な「判断」が可能な問題・解答例
- ▶ 手続きではなく、意味の理解こそが学力
- ▶ 現実の世界と数理的処理の間の「変換」過程の重視

現実の世界



数理的処理



トマトの授業

- ▶ 2個入りと4個入りのトマト、どっちがお買い得か？
「4個入りの方が、1個あたりの値段が安いからお買い得」
- ▶ さらに4個入りのブランド・トマト、9個入りのミニトマト
「高いけどリコピンが1.5倍だから栄養ではかえってお得」
「ミニトマトは1個あたりが安いけど、物足りないからダメ」
「でも、お弁当にはミニトマトが便利だからお買い得」
「うちはお母さんと2人家族だから、4個だと余っちゃう。
うちとしては2個パックがむしろお買い得かも！」
- ▶ 数理の手続き→数理の意味→数理のよさ・限界
- ▶ 「答えが出たところから算数の授業が始まる」